

釈迦堂参考資料

成田山の一信の作品（図録より）

- ①釈迦文殊普賢四天王十大弟子図 紙本一幅
- ②十六羅漢図 紙本二幅
- ③釈迦堂天井画 雲龍図 板一面
- ④釈迦堂天井画 伎楽天図 板二面
- ⑤風神雷神図 紙本 二面
- ⑥釈迦堂羽目板五百羅漢像（松本良山刻） 板八面
- ⑦釈迦堂羽目板五百羅漢像下図 紙本一幅
- ⑧成田山彫物下画五百羅漢尊御首下図 紙本一帖



狩野一信画『風神雷神図』



狩野一信画『風神雷神図』

2011年発見画像撮影を基に詳しく確認し、取り外して煤を落としたところ、豪快な風神と雷神の姿が現れたという。



堂裏の壁「釈迦文殊普賢四天王十大弟子図」



南蔵院の寝釈迦像

寝釈迦像

涅槃像

35歳で悟りを開いてから80歳で入滅するまでの45年間、毎晩1時間、この涅槃像の姿で説法をしていたと伝えられている。

寝釈迦像 南蔵院（なんぞういん）（日本・福岡県篠栗町）

全長 41m 高さ 11m 重量 約 300t **ブロンズ製では世界一**
体内にはミャンマーから頂いた仏舎利が安置されています

ワット・ポー（タイ） 全長46メートル、高さ15メートルの涅槃仏が有名である。

北枕（きたまくら）

頭北面西（ずほくめんさい） 釈迦が入滅の際、北の方角へ頭を置いて横になったといわれることから来ている。

釈迦堂建立について

嘉永6年(1853)成田山は中興第十一世照嶽しょうごく上人(1810~1869)の時代を迎え、先住からの本堂の建立事業が引き継がれた。44歳で住職にのぼった照嶽は、半年後、新本堂(現在の釈迦堂)の建立の許可を得た。折しも天保改革で参詣者も減り、寺内に反対者もいたが、照嶽は江戸から近郷近在を歩き協力を請い、藩主堀田正睦(ほったまさよし)の援助を受け、6年を費やして18万両の寄進を達成、この大工事を完成させたという

釈迦 遷化 2月15日 常楽会御逮夜(14日) 常楽会(釈尊涅槃会)(15日)
誕生 4月8日 釈迦降誕会(8日) 悟り 12月8日 釈尊成道会(8日)



【出山釈迦像】 (しゅっせんしゃかぞう)

江戸時代後期の仏師・松本良山(1801-1872)は、旧本堂(現釈迦堂)堂羽目の「五百羅漢」の作者で、万延元年(1860)にその完成を記念して「出山の釈迦像」(写真左)を成田山に奉納しています 台座付き 高さ1,2M

【出山釈迦像】 (しゅっせんしゃかぞう)

29歳のとき出家して求道の旅にでます。あらゆる苦行を、山の中に入って修行します。それは想像を絶する激しいものでした。こうして**六年の苦行**が続き、髪や髭は伸び、体は骨と皮の状態になりました。身を苦しめることの無意味さを知った釈迦は、ついに山を下ります。このときの釈迦のすがたをあらわしたのが「出山の釈迦像」です。

お釈迦さまについて

北インド地方にある**ピプラワー**というところで古いストゥーパ(仏塔<仏塔について詳しく知りたいかたは、[仏教ものしり百科]の寺院を参照してください>)を発掘中に仏舎利(ぶっしゃり、釈迦の遺骨のこと)の入った壺を発見したのです。その壺には紀元前3世紀頃の文字で「釈迦の遺骨を納めた壺である」というようなことが刻まれていました。これはおそらく本物の仏舎利であろう、と認められたため釈迦は**実在**の人物であることがほぼ決定されたのでした。

今から**2500年**程前に実在した人物。

インドに近いネパール南部のタラーイ地方にあるルンミンデーイーだろうとされています。ですから、今の区分でいえば、釈迦は**ネパール生まれ**ということになるのです。

紀元前463年頃、紀元前566年頃、紀元前624年頃の三説があります。諸説ある理由は、経典・論書などの記述に違いがあったりするからです

日本では、現在「**紀元前463年頃**」説が**有力**ですが、この説にもかなりの欠点があるので断定することはできません。**4月8日**を釈迦の誕生日としています。

覚王山日泰寺 (かくおうざん にったいじ) 名古屋

明治31年(1898年) 仏教開祖釈迦(ゴータマ・シッダルータ)の遺骨仏舎利が発見される。

インドにおいて、骨壺が英国の手で発掘され、古代文字の解読の結果判明。

明治33年(1900年) 遺骨仏舎利が、シャム国国王ラマ五世から日本国民へ贈られた。

明治37年(1904年) 仏舎利と黄金の釈迦像を奉安するため、覚王山日暹寺(にっせんじ)として創建。



日泰寺奉安塔

大正7(1917)年アジア建築に詳しい東大教授伊東忠太の設計によって完成した釈尊遺骨を納めた宝塔。三段の基壇の上に鐘を伏せた形の塔身がのるユニークな塔である。

平成21年9月30日

日本の仏教界あげての唯一のお寺が「覚王山 日泰寺」であることを御存じでしょうか？
現在仏教19宗派の管長が3年交代で住職を勤め、お釈迦様のご真骨が祀られている超宗派の寺院なのだ。

BC383年釈迦はクシナーラーで入滅し、荼毘にふされた。その遺骨は、八つの国や部族に分けられ、釈迦族の本国で釈迦も出家するまで住まいしたカピラヴァットウ城にも分骨された。

明治31年(1898)1月そのカピラヴァットウから13キロ離れたインド領ピプラーワで、英国駐在官のウイヘルム・ペッペが古墳の発掘をしている時に水晶製の骨壺を発見した。その壺には、「釈尊の遺骨」と古代文字で銘刻され、釈迦の真実の遺骨と断定された。

そしてそれはインド政府に提出されたが、仏教徒が人口の1%というインドでは、ありがたくもなかったのか、シャムの王室に贈呈された。(壺はニューデリーの博物館に安置)

シャム国王チュラロンコンは、大喜びし、ワットサケットに祀ったがその喜びを同じ仏教国で分かち合おうと、セイロンとビルマにお裾分けしたのである。

それを聞いた日本の駐在公使・稲垣満次郎がうらやましくてたまらず、日本にも分骨して欲しいと国王に懇願、「日本国民への贈り物」としてそれが認められた。

明治33年6月仏教界13宗56派の代表がバンコックで遺骨を拝領した折、遺骨奉安の寺院を超宗派で建立する旨、約束すると完成時の御本尊にとシャム国宝の1000年を経た釈尊金銅仏を下賜されたのである。

寺院建立の候補地を巡り、調整に難渋したが、名古屋官民一致の誘致運動の結果、名古屋に決定し10万坪の土地が用意されて、明治37年に完成した。当初は日暹寺(にっせんじ)と称した。

暹はシャムの国名(暹羅)から採ったもので、タイと改称した際に寺名も変更された。

御恩を忘れないための命名である。毎月21日は、「弘法さんの縁日」で多くの人が訪れるし、周辺には四国八十八ヶ所のお堂が揃っている。ちなみに「覚王」とは、釈迦の別名。

インド 1947年 英国領より独立

ヒンドゥー教徒 80.5%、イスラム教徒 13.4%、キリスト教徒 2.3%、シク教徒 1.9%、
仏教徒 0.8%、ジャイナ教徒 0.4%

佐々井 秀嶺(ささい しゅうれい、本名(日本時代): 佐々井 実

彼の努力で仏教徒は増えている、現在は十倍ぐらい、即ち8%一億人ほどのようです。

タ イ 仏教徒(94%) イスラム教 5%

ミャンマー 仏教徒(90%) キリスト教、回教等

スリランカ 仏教徒(70%) ヒンドゥ教徒(10.0%)、イスラム教徒(8.5%)、